

田川 観光については、海外旅行者の宿泊者数は2013年が42万3400人で、前年より1万895人増加しています。これは過去最高です。03年は14万7000人ですので、この10年間で3倍近くに増えていきます。当社ホテルでも、今年4月は外国人の宿泊者数が27.3%を占めました。4人に1人が外国人です。5月以降も20%台で推移しています。これからも外国人観光客は増えていくと予想されますので、十分な受け入れ態勢をつくるべきです。現状ではタクシー、ホテル、小売店などで外国語を話せる人が少ない。英語や中国語で最低限のコミュニケーションがとれるように語学研修をしなければいけないと思います。それから、道路標識や案内標識については、英語表示はあっても韓国語や中国語の表示はない。そのような点を徹底的に改善すべきだと思います。

そこで提案なのですが、熊本県、熊本市、経済界が一緒になって、受け入れ態

勢整備のための組織をつくるのはいかがでしょうか。特に2019年にハンドボールとラグビーの世界大会がありますし、その翌年には東京オリンピックがありますので、それをターゲットにして観光戦略を一緒につくる。そして、語学研修や案内板表示などを論議して、県民の意識を高める運動を展開する。そのことで、外国人の受け入れがスムーズにできるようになると思います。他県に先んじて、行政と民間が一体となって観光推進のための組織をつくり、新しい取り組みができないかと考えています。

農業については、熊本県の農業生産額は全国で5位、農業所得は全国4位です。非常にバランスよく多彩な作物がとれます。収穫量1位はトマト、スイカ、イグサ、デコボン、葉タバコなどがあります。この農業の基盤を地方創生で使うべきだと思います。

農業を産業化することが大事ですの

で、先日も商工会議所と経済同友会の定期的な会合に初めて梅田穰JA熊本中央会長と加来誠一JA熊本経済連会長に出席いただきました。そこでどうやって熊本の農業を振興していくかを議論し、経済団体と農業団体が連携しようということで認識が一致しました。例えば、6次産業化という流れがありますが、農業団体の取り組みに企業が入ることでニーズや販路の確保ができます。そのようなかたちで農業を産業化していくことができるはずです。

海外展開についても、香港やシンガポール、インドネシアなどに農産物を輸出する動きがあるので、そういう部分でも連携できると思います。それに、熊本には熊本大学や農学部を持つ東海大学もあります。パイオなども含めて、農業についての科学的な研究を進めることが可能だと思います。農業が元気になれば、郡部の雇用や経済の安定につながるはずで



熊本市が整備を進める熊本西環状線。写真は下硯川高架橋（仮称）



左から大西一史 熊本市長、蒲島郁夫 熊本県知事、田川憲生 熊本商工会議所会頭

す。九州各県を見ても、農地や水にこれだけ恵まれている地域は熊本以外にありません。農業と産学官の4者連携で本気になって考える必要があると思います。

大西 おっしゃった通り、熊本には良い素材があると思います。ただ、それを地域振興につなげるアイデアが足りない。これを産学官と農で連携して取り組むことが大切だと思います。

観光についても、確かに言葉の問題があります。熊本城は語学ボランティアの

方々に研修を受けていただき、外国語で案内ができる体制が整いつつあります。それが熊本城だけではなく、いろんなエリアで外国語による案内ができるようにしなければいけません。熊本国際コンベンション協会などの組織とも連携しながら語学研修することは大事だと思います。

常にお客さまがどこにいるのかを意識しながら取り組まなければいけません。それは観光に限らず、農業や商業でも同じだと思います。そのためには、行政や経済団体がそれぞれに考えるのではなく、

連携して考え、企画を進めていくことが大事だと思います。

松岡 熊本は潜在力がありますからね。

大西 そうですね。これからその潜在力を引き出すために、新しい取り組みをやっていきますのでご指導をお願いします。

松岡 本日はありがとうございました。